

問題 1

2015 年 11 月 5 日付 Japan Times の “Aomori’s moving castle and other architectural tales” という記事の前半部分から出題されたものです。今年の試験で「城」で出題されそうなのは「弘前城」と「松江城」だと当スクールの授業で申し上げましたね。弘前城の曳屋の件については、曳屋を人力で行ったこと、原因となった石垣の「はらみ」に関してお話しましたので、内容については受講された生徒さんはすぐに分かり、取り組みやすかったと思います。

- 1-1 ⑧ (D)の”specialize in” という表現は授業の中で取り上げました。
1-2 ④ 昔のように人力のみで曳屋を行いました。
1-3 ⑥ 本丸の石垣が膨らむ「はらみ」を表わす言葉を選びます。
1-4 ① (5)の“it is all about” という表現は授業で取り上げましたね。大当たりです！
1-5 ③

問題 2

解答が 3 つとも正解で 3 点という配点形式の語句整序問題です。授業で、ロンリープラネット、アイウィットネス、ミシュラングリーンガイドなどのガイドブックを読むことをお奨めしましたが、今回はずばり、ガイドブックからの出題でした。今回の出題で特徴的なのは、「～」という意味になるように並べ替えなさい、という指示があったことです。昨年度は 2 通りの正解が可能な問題が発生したため、このような形態に設定したのではないかと思います。昨年度に続き複数の解答が可能な問題があります。

2-1 の「何気なく観察した人が頭にくるほど不可解だと思うのは、単に効果的なコミュニケーションが苦手なせいである」という与えられた和文では①more likely の位置が確定できません。また③to the casual observer の位置も複数可能です。

原典を確認したところ、What appears to the casual observer to be a maddening inscrutability is more likely just an inability to communicate effectively.という文でしたので、正解は、3 番目③ 6 番目⑥ 8 番目⑩ということになります。

しかしながら、下記の文も充分あり得る英文です。

- What appears to be a maddening inscrutability to the casual observer is more likely just an inability to communicate effectively.
- What appears a maddening inscrutability to the casual observer is more likely to be just an inability to communicate effectively.
- What appears more likely to be a maddening inscrutability to the casual observer is just an inability to communicate effectively.
- What appears to the casual observer a maddening inscrutability is more likely to be just an inability to communicate effectively.

受験生はここでとまどい、時間をかけて正解に辿りつこうとしたようですが、「結局のところ複数解答でした」では、あまりに気の毒ですし、英語力とは関係のない「運」を試されているような問題です。

2-2

2 番目 ③ 6 番目 ② 10 番目 ①

The reticence to share innermost thought may contribute to the Western image of the Japanese as mysterious.

2-3

2 番目 ⑩ 7 番目 ⑤ 10 番目 ①

A few rounds in a local izakaya(pub-eatery) will quickly put all of these notions to rest.

この整序問題では、主語になるのは A few rounds ですが、この A few rounds は問題文のように「地元の居酒屋に何度か行けば」という意味ではありません。「地元の居酒屋で何度かお酒をお代りをすれば」という意味になります。つまり、「何度も行く」のではなく、「一度行って何杯か飲めば」です。

著者の Chris Rowthorn 氏は英国オクスフォード出身です。英国では round は知らない人はいない習慣なのですが、パブで、ビールなどを最初の人全員にひとりあたり分買い、次の人がまた全員分をひとりあたり買う、そしてまた次の人が・・・ということを繰り返します。(このやり方ですと途中で抜けにくいので、最後は全員酔っ払います) このひとりあたり分を round と言います。

2-4 ⑤

問題 3

東京の坂道に関する文章で、これもガイドブックから取られたものです。去年のような分かりにくい日本語が改善され、取り組み易くなったとは言え、設問の日本語に誤りがあります。

3-1 ② the occupation of the local inhabitants の意味が分かればすぐに正解が分かります。

3-2 ④ Hardly ever が鍵、「例えばモンマルトルやジャニコロでは人の気持ちは高まるが、東京ではめったにない」という意味が掴めれば容易です。

3-3 ③ ①と③が良く似ていて迷ったかもしれませんが、日本語をよく読むと①では「日本人には俳句や風景画に見られる場所への特別な愛情がある」として、場所を特定しています。原文では「俳句や風景画に見られるように」という意味しかありませんので、①ではありません。

3-4 ③ let alone が鍵、「～どころか」という意味なので「一章どころか本を一冊書ける」。もうひとつの鍵は could do much worse than 「～するの悪くはない」という表現。

☆ここで問題なのは、正解である③の「歩きまわって確かめるよう限定するの悪くはない」という訳です。他の選択肢でも「限る、限定する」と訳してありますね。しかし、「確かめるよう限定する」とは？何のために限定するのでしょうか？意味がよくわかりません。それもそのはず、本文中の”limit ourselves to”という成句の意味が掴めていないので、こんな変な日本語になったのです。ここで使われている”limit oneself to”=”concentrate on”=”specialize”の意味で使われているのです。英和辞典では「自分を制限する、我慢する、～にとどめておく」などの訳ばかりで、この意味は出てきませんが、英英辞典では、むしろこちらの意味の方が出てきます。ですので、ここは「歩きまわって調査することに専心するの悪くない」という意味になります。

3-5 ① Far from it が鍵、「遠くに」ではなく「それどころか/大違いである」という意味なので、これが分かれば、①しか選択肢はありません。

問題 4 会話形式になりました。4-3 は全部誤りを含む英文ですので、正解はありません。

4-1 ③ protection に続くのは from/against ①は pollution となっているので誤り。

4-2 ③

4-3 正解なし。

まず、羊羹は sweet bean jelly であって、sweet beans jelly とは言いません。味噌を soybean paste、豆腐を soybean curd というように、言葉の間にハイフンが入るイメージの語句ですので s は入れません。設問で sweet beans jelly と訳している①と③は正解とはなりません。sweet bean jelly としているのは②と④です。しかし、②は「日持ちもしますし」を which lasts for a while とし、これでは「少しの間持つ」という意味になり、「日持ちがする」とは違いますが「コーヒーにも合う」を fits well coffee としています。コーヒーの前に with が入らないと変な英語になりますので②は違います。残った④ですが、「日持ちもしますし」を have a long shelf life としていて、「保存期間が長い」という意味なので、意味は通じますが、カンマの後に関係詞 that が来ています。カンマの後に関係詞が来る非制限用法では that は使えない、というのが学校英語の法則ですので、それに従えば、これも誤りということになります。

①の sweet beans jelly の s がなければ、全体の英文としてはこれが一番良い表現ですが、s がついているのは看過できません。従って、この 4-3 には正解はない、という結論になります。

4-4 ④ deer は授業でも言及したように、複数形も deer。日本の神は gods より deities を用いること、「神聖な」という表現は holy ではなく sacred を用いることは繰り返し授業でお伝えしました。

4-5 ②

4-6 ①

問題 5

5-1 ④ 白川郷に関しては授業でカバーしました。

5-2 ③

5-3 ③

5-4 ① 蹲踞（つくばい）は、基礎英語でも直前セミナーでも出題。大当たり！

5-5 ②

5-6 ①

総評

長文は英字新聞やガイドブックから出題されていたことが特徴的で、内容も弘前城の曳屋、東京の坂道という今的な話題性のあるものが出ましたが、一方で日本人の特質に関する内容が出題されました。昨年度はこれに関しては出なかったもので、講師としては揺り戻しがあるかもしれませんと申し上げていましたが、やはり出ました。

全体としては昨年度より難度がやや低い内容でした。合格点を70点とするとなっていますが、昨年度同様に点数調整が行われるでしょうから、合格点はそれより低くなると思います。自己採点で70点に到達しなかった受験生も充分合格のチャンスはあります。気持ちを切り替えて2次対策に踏み出しましょう！